

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)ななかまど

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0191000231 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 北海道友愛福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆうあい | | |
| 所在地 | 江別市豊幌美咲町23-14 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年7月23日 | 評価結果市町村受理日 | 平成30年10月4日 |

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

| | |
|-------------|--|
| 基本情報リンク先URL | |
|-------------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-----------------------------|
| 評価機関名 | 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部 |
| 所在地 | 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階 |
| 訪問調査日 | 平成30年8月29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。 ・施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。 ・調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。 ・中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。 ・花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。 ・近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。 ・めずらしい動物が裏庭に現れる事がある。 ・住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる ・認知症カフェの実施。 |
|--|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>当事業所は、江別市の東方向にある豊幌地区の閑静な住宅地に位置する平屋建て2ユニットのグループホームである。隣接して、法人内の盲人養護老人ホームがあり、同施設の敷地内にグループホームが併設しており、JR豊幌駅から徒歩圏内で、利便性が良く、家族や友人、知人の来訪も多い。法人は、設立45周年を迎え、「和顔愛語」の精神を基本として、盲人養護老人ホームや特別養護老人ホーム、ケアハウス、訪問介護、居宅介護支援、地域包括支援センター、保育園などを運営しており、地域からの信頼も厚い。事業所では、夏祭りや災害時の避難訓練などは隣接する老人ホームと合同で開催しており、家族を始め、地域の方の参加協力も構築している。ホーム内は、建物正面が玄関で、その奥が地域交流スペースとなり、それを中心として、ユニットが左右対称的に配置している。交流スペースでは、地域包括支援センターと連携して、毎月認知症カフェを開催しており、地域との交流を進めている。「その人らしさ」の生活を支援するアットホームな事業所で、これからも認知症高齢者を支える事業所として期待したい。</p> |
|--|

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

| 項目 | | 取組の成果 | | 項目 | | 取組の成果 | |
|----|--|-----------------------|---------------|----|---|-----------------------|--------------|
| | | ↓該当するものに○印 | | | | ↓該当するものに○印 | |
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者の | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族と |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | 2 家族の2/3くらい |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | 3 家族の1/3くらい |
| | | | 4 ほとんどつかんでいない | | | | 4 ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38) | <input type="radio"/> | 1 毎日ある | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ毎日のように |
| | | | 2 数日に1回程度ある | | | | 2 数日に1回程度 |
| | | | 3 たまにある | | | | 3 たまに |
| | | | 4 ほとんどない | | | | 4 ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | <input type="radio"/> | 1 大いに増えている |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | 2 少しずつ増えている |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | 3 あまり増えていない |
| | | | 4 ほとんどいない | | | | 4 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての職員が |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | 2 職員の2/3くらい |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | 3 職員の1/3くらい |
| | | | 4 ほとんどいない | | | | 4 ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | 2 利用者の2/3くらい |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | 3 利用者の1/3くらい |
| | | | 4 ほとんどいない | | | | 4 ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | 2 家族等の2/3くらい |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | 3 家族等の1/3くらい |
| | | | 4 ほとんどいない | | | | 4 ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | <input type="radio"/> | 1 ほぼ全ての利用者が | | | | |
| | | | 2 利用者の2/3くらい | | | | |
| | | | 3 利用者の1/3くらい | | | | |
| | | | 4 ほとんどいない | | | | |

(別紙4-1)(ユニット1 ななかまど)

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|---|---|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 会議等で地域密着型サービスの意義と理念の伝達をしている。職員には実践に向けて取り組みをお願いしている。 | 事業所の理念は、事業所内に掲示し、職員を始め、利用者や家族にも周知するよう努めている。職員は、研修会や会議の際に理念の意味を確認するなどして共有し実践につなげている。 | 事業所の理念は、研修会や会議の際に理念の意味を職員が確認しているが、会議の際に理念を唱和するなどして、理念の意味を再確認し、職員間で共有することを期待する。 |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | ご利用者が地域と繋がりを絶たないよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施や自治会の集まりへ参加し地域の方と交流する機会が増えている。 | 自治会のお祭りに事業所として、型抜ききの露店で参加協力するなど、地域の行事には定期的に参加して交流している。また、事業所内の地域交流スペースで地域包括支援センターと連携して認知症カフェを開催するなど日常的に交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 認知症カフェで認知症の理解や介護相談を実施し、福祉事業所として、地域住民に向けて活かせる場を提供している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている | 事業所の取り組みや施設状況、認知症に関する事などを会議を通して報告・検討し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議は、家族や自治会役員、民生委員や地域包括支援センター担当者、認知症地域支援推進員などが参加して定期的に開催し、運営状況の報告や意見交換などを行い、サービス向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 地域包括支援センターとサービスの取組みについて話し合う機会がある。また、認知症カフェを実施してから市役所職員と施設やカフェの状況を報告する事が多くなっている。 | 事業所内の地域交流スペースで、認知症カフェを毎月開催しており、江別市担当課への状況報告や地域包括支援センターとの情報交換を行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 指定基準の身体拘束禁止行為を理解し、身体拘束ゼロ委員会、研修会に参加する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 法人内に身体拘束ゼロ委員会を設置して、月1回開催し、身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、研修会等の開催などを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束をしない指針やマニュアルを整備し、事業所内研修を年1回開催して、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束をしないケアの研修会を年2回以上定期的に開催して取り組むことを期待する。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修を通し、学ぶことができています。また、併設施設と研修やユニット会議に行動が虐待に繋がっていないのか検討している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度の研修へ行き、会議時に伝達研修する。理念に添ってその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。 | ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況の報告をしている。また、裏面には、利用者の生活状況を担当者が記載している。家族からの意見や要望は、来所時に殆ど聞き取っており、会議で検討し、運営に反映している。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員全体会議を毎月開催し、施設長・管理者が職員の意見・提案を聞く機会を設け、出来る限り、反映させている。 人事考課面接でも意見等を収集している。 | 職員の全体会議は、月1回開催し、管理者と職員との定期的な個人面談は年3回行っている。また、身体拘束ゼロ委員会や事例検討委員会などもあり、2ヶ月毎に開催し、職員からの意見や提案を聞き運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年3回の人事考課面接を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職場内外のケアに関する学習会に参加機会を確保する他、職員にはOJTを心掛けてもらいながら勤務に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている | 市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、ネットワークづくりやサービスの質向上に取り組んでいる。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 新しい環境に慣れていけるように、職員とのコミュニケーションだけではなく、他入居者の会話の仲介等に心掛けている。本人が出来る事・出来ない事、好きな事・嫌いな事、要望・不安・困っている事が把握出来るように日々関わり、関係づくりに努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。又、施設見学時に設備についての詳細も説明し入居後の生活のイメージをしやすくように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の段階で全職員が対象者の情報を可能な範囲で把握し、集約した情報を共有し円滑に落ち着いた生活に移行できるよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 様々なニーズに対し、傾聴を繰り返し思いに寄り添いながら最善策を入居者様と共に導き出すよう努めている。又、食器拭きや掃除等の軽作業を共に行う事で、暮らしを共にするもの同士の関係構築に取り組んでいる。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 随時、電話、お便り、面会時を利用し入居者様の近況報告を家族様に行っている。キーパーソンを始めとした家族様と入居者様の良好な関係構築に役立てる様、ケアの方針、日常の様子等情報の共有に努めている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 希望時の電話の使用、友人、知人からの電話の取次ぎを行っている。手紙や葉書きを作成可能な入居者様にはそれに伴う支援を行っている。又、移動可能な距離に馴染みの場所がある入居者様には積極的にその場を訪れられるように支援している。 | 利用者の殆どが地元出身者な為、家族や友人・知人の訪問が多い。また、地域の馴染みの場所である神社の初詣や飲食店などの関係継続の支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者様同士で居室を訪問しあったり、共有スペースでユニット関係なく自然と入居者様が集える環境作りにも取り組んでいる。又、職員は各入居者様の他入居者様との関係性を把握し、より良い関係構築に向けた支援に努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要に応じて退居後も家族と連絡を取りながら、必要な情報提供や相談・支援に努めている。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 介護計画を作成する上で本人の希望・意向の聞き取りに努めるとともに、モニタリングでは本人の意向を考慮して検討している。 | 利用者の思いや意向については、介護計画作成時の担当者会議の際に、本人や家族に聞いており、モニタリングも本人の意向を配慮しながら本人本位に検討している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前にそれまでの生活歴・暮らし方・生活環境やサービス利用の経過の情報を集め、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の関わりや、定期的なユニット会議・モニタリングにおいて現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画を作成するに当たって、本人・家族・関係者から意見を頂き、反映させて作成している。 | 利用者毎の担当者が、本人や家族等からの意見や要望を聞き、ユニット会議やモニタリングで情報共有し、本人の現状に即した介護計画を作成している。見直しは半年毎に行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々個別の介護記録を記入するとともに、定期的なユニット会議やモニタリングにおいて情報共有し、実践や介護計画の見直しに活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご本人やご家族の意向を傾聴し、散歩や外出・趣味の継続などに取り組んでいる。 また、ご家族にも行事の参加を促している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | その方のできる事やできない事を把握し、出来る限り、その方の趣味等を継続できるよう自立支援の介護をしている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 意向に添いながら、定期受診をしている。 受診や在診に関わらず、職員が医療関係者との交流の場に足を運ぶ事もある。 | 以前からのかかりつけ医は、家族が同行して受診しているが、都合が悪い時は職員が対応している。協力医療機関の定期受診は、職員が同行しており、看護師が24時間体制で適切な医療を受けられるよう支援をしている。 | |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 体調などに変化があれば、その内容を伝達し相談と検討している事でご本人やご家族が納得できる医療を受けている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|--|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院する際は医療機関に利用者に関する情報の提供やケアの相談を行っている。また、早期に退院できるように、病院関係者、ご家族と連携を図っている。 | | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合は、事業所で何ができるかを職員全体で話し合いを設けている。また、ご家族や医療機関と連携を図り、終末期の支援に取り組んでいる。 | 入居契約時に重度化した場合についての事業所の対応を説明し同意を得ている。また、看取りについては、本人や家族と打ち合わせを行い、意向に沿った対応となり、主治医や看護師との医療連携にて対応するよう取り組んでいる。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に研修会や事例検討委員会を開催し、実践力を身に付けるように努めている。 | | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に火災や地震の避難訓練を行っている。また、全体会議等で災害時の避難方法の確認を行っている。 | 避難訓練は、消防団と自治会の協力により、隣接の盲人養護老人ホームと合同で年4回実施している。内3回は火災で他は地震の訓練となっている。マニュアルや備蓄を整備して、地域との協力体制を築いている。 | 火災と地震の避難訓練を定期的に老人ホームと合同で開催しており、水害の対策も机上でシミュレーションを行っているが、停電時の備品等の検討と整備を至急に行うよう期待する。 | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員全体が一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない声掛けに努めている。また、ユニット会議等で話し合い、確認し合っている。 | 人格の尊重とプライバシーの確保については、事業所内での接遇研修を年1回定期的に行って、学んでいる。また、ユニット会議でも話し合い、声掛けなど確認して対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご家族への電話などの希望があれば、電話連絡ができた、ご本人に行動を制限しないよう伺いながら、声掛けをしている。 | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している | 体操やレクリエーション等の参加はご利用者の希望を尊重し、無理強いはいしなよう心掛けている。 | | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 毎日のふくそうはスタッフと一緒に選び、月に一度、理美容の訪問があり、カット・顔そりなどしてもらっている。 | | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の献立は食べれない物があれば、代替品を提供している。また、ご利用者と一緒に調理レクやおやつ作りをしている。片付けはご利用者の体調により、片づけをしてもらっている。 | 食事は、隣接する養護老人ホームから同じメニューで提供されており、ホーム内では、主食と汁物を用意しているが、調理レクやおやつ作りで、利用者と職員と一緒に料理をしたり、片付けをしたりしている。クレープやお好み焼き・たこ焼きなど多彩な調理レクで、外食は、寿司店など楽しい支援をしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 各、ご利用者の一日の水分摂取量を記録し、1200ccを目標に飲水を勧めている。また、糖尿の方などもいるため、カロリーの少ない物を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 促しや見守りを行っている。時には拒否されることがあるが、継続して行っている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている | トイレの声掛け、誘導、可能な限りトイレで用を足す事を目標としている。 | 個別の記録簿にて、排泄のパターンを把握し、カンファレンス会議で職員間で共有して、ひとり一人に声掛け誘導して、可能な限りトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事の際、乳飲料提供し、自然排泄を促す取り組みをしている。また適度な運動をする | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている | 体調やタイミングを合わせ、入浴支援をしている。 | 浴槽は、3点介助の浴槽で、職員に配慮をされている。入浴は、週2回で、利用者の体調や状況に合わせて、時間などもそれぞれの希望に沿った支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ひとりひとりの生活習慣を把握し、週にその人に合わせた運動や趣味活動を行い、本人にとってリズムが生まれるように努力している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者1人ひとりの目的・副作用・用法を理解している。飲み忘れ・誤薬防止の為、服薬時2人の職員で確認をしている。状態変化・経過を医療機関に提供している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 1人ひとりに合った役割を見極めている。行事により気分転換をはかり、楽しむ事により張り合いのある生活が出来る様支援している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 戸外で生き生きと生活できるよう天気の良い日は散歩・日光浴をし気分転換をはかっている。誕生日プレゼントは職員と一緒に買い物の支援をしている。 | 日常的に敷地内や近隣の散歩をし、外気浴も行っている。外出行事は、お花見や紅葉狩り、イチゴ狩り、バラ園散策、スイーツドライブなど多様な行事を行っている。また、毎年オレンジRUNにも参加するなど利用者の楽しみな外出の支援をしている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 原則、金銭管理はしていない。希望がある場合、本人が安心する最低の金額を所持し、家族・職員と連携し管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 1人ひとりの電話の習慣・希望に応じ、外部との交流支援を行っている。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 証明の色は温かみのある色にし、家庭的な雰囲気ですてやかに過ごせるように努めている。 | ホーム内は、全体的に広くゆったりしている。共用空間の居間や食堂も広く、天窓もあり、採光や風通しもよく、季節を感じる自然な飾り付けや行事の写真などの思い出の掲示がある。大きな窓のリビングには、利用者がいつも寛いで居心地よく過ごしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | まわりに気を使う事なく気の合った方々で楽しく過ごせるように、共有スペース等を利用して他者との交流ができるように努めている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご本人が使い慣れた物、自宅で過ごしていた時の家財を設置し、住み慣れた空間に近付けご本人が安心した生活ができるように努めている。 | 居室には、トイレと洗面台、ベットが設置され、プライバシーに配慮している。利用者は、使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ひとりひとりの身体能力に合わせ、都度会議等で対策を話し合い、他職員の協力も得て転倒なく自立した生活ができるような環境づくりに努めている | | |